

今年度発掘調査現場の紹介

ご た ん だ 五反田遺跡

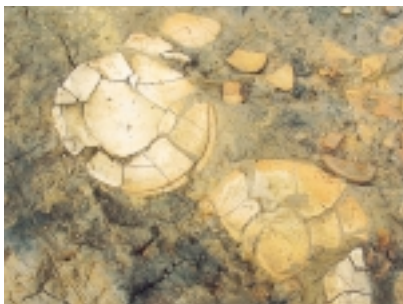
(中頸城郡板倉町大字米増字五反田 44 ほか)

五反田遺跡の発掘調査は、北陸新幹線の建設に伴うもので、対象面積は5,680㎡です。本遺跡は、頸城平野の南東端大熊川左岸の扇状地に位置し、昨年度調査した仲田遺跡から南南東に約1km離れています。7月から本格的な調査に入り、11月末に終了する予定です。

調査区を4区に分け調査を進めています。A区では平安時代の川跡が検出されました。川底から、表面に「西」と墨書された土師器の椀が1点完形で出土しました。ほかには柱の一部と思われる木材や曲物の底板なども出土しました。



墨書土器



重なった坏
(土師器焼成遺構の左上部分)

最も広いD区は、包含層発掘を終え、遺構精査及び遺構発掘を行っています。奈良～平安時代の土師器や須恵器などの遺物が多量に出土しています。現在までの調査では、遺跡の全体像は確認できていませんが、数十基の柱穴が検出されており、さらに増えていくものと思われます。また、円形または隅丸方形の炭溜まりが数か所で検出されています。うち一辺1.5m程の隅丸方形の浅い土坑は、二十数点の土師器の椀が重なって出土し、焼けハジケが認められることから土師器の焼成遺構と考えられます。

今後の調査で、遺跡の性格を明らかにしていきたいと考えています。

(加藤義孝)



土師器焼成遺構

はんがんめ 反貫目遺跡

(北蒲原郡中条町大字築地字反貫目 515 他)

反貫目遺跡は、新潟県北部のいわゆる阿賀北地域に広がる沖積平野の一角に位置しています。

遺跡のすぐ北側には県道中条・紫雲寺線が通過し、北東方向はるかには国史跡である鳥坂山城跡が望めます。調査は、日本海沿岸東北自動車道の建設に伴うもので、4月から10月までの予定で行っています。

調査によって、遺物の出土する層が上層と下層の2枚にわたって確認されました。上層からは約1,500年前の古墳時代中期の遺構と遺物が発見されました。また、下層からは約1,700年前の古墳時代前期の遺構と遺物が発見されました。

検出された遺構は、骨片や完形土器が伴う土坑及び溝等です。出土した遺物は、土器類が中心で、甕類の大形破片や完形に近いものが目立ちます。

(寺崎裕助)



土器出土状況



遺構検出状況

よかわなかみち 余川中道遺跡

(南魚沼郡六日町大字余川字中道 1414 の 1)

余川中道遺跡は一般国道17号六日町バイパス建設に伴う発掘調査を行っています。ここは庄之又川によってつくられた扇状地の先端部に広がる古墳時代の遺跡です。遺跡西側の余川地内の丘陵には県内を代表する県史跡飯綱山古墳群や蟻子山古墳群があります。当遺跡は飯綱山古墳群の東側丘陵下に位置し、この古墳群造営に関わる集団の集落と見られます。今年度は4,100㎡の発掘を行います。7月から調査を始めたところ、浅い川跡とその岸には高杯、甕、杯など大量の土器と玉類や石製模造品を集積した遺構が見つかっています。水辺に近いことや高杯が多く見られることから、祭祀後に廃棄されたものと考えられます。調査の進展につれ、古墳時代の集落内祭祀の様子が明らかになるものと思われれます。

(飯坂盛泰)



作業風景



土器出土状況



丸木舟

- 青田遺跡からのメッセージ -

10月末から、埋蔵文化財センターの展示室において、加治川村の青田遺跡から出土した丸木舟が公開されます。青田遺跡は、今から約2,500年前の縄文時代晩期に営まれた河岸の集落跡です。平成11～13年までの3か年にわたる発掘調査の結果、50棟を超える掘立柱建物や、丸木舟や櫂、弓、籠、漆塗腕輪、漆塗糸玉など、当時の人々の生活を物語る多数の木製品が出土しました。今回公開される丸木舟はトチノキをくりぬいて作られた、全長5.4m、幅0.8mの舟で、平底であったことから穏やかな河川や湖沼の交通や漁に利用されたと考えられています。丸木舟と一緒に出土した櫂（舟をこぐ道具）と合わせて、青田縄文人が人や物資の輸送に丸木舟を利用していた様子を私たちに物語ってくれます。

ところで、土の中で腐りやすい木製品が2,500年もの間残っていたのはなぜでしょうか？それは青田遺跡が低地で地下水位が高く、また急速な土砂の堆積によってバックされ、腐敗の原因となる酸素から遮断されていたためです。しかし、これらの木製品は埋没中に木材を構成するセルロースや樹脂成分が流出して過剰な水分を含み、見かけ上形を保っているようでも木材としての強度が失われています。また、日光や空気にさらされることで急激に乾燥し、収縮・変形してしまうため、このままでは研究や展示に活用することができません。そこで現在では、これらの貴重な木製品を将来にわたって活用するため、木材中の水分を空気中でも安定しているポリエチレングリコール（PEG）や糖アルコールなどに置き換える科学的な保存処理が全国で行われています。

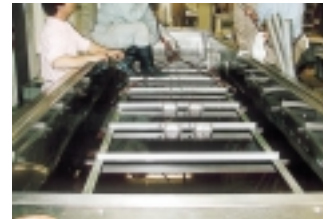
青田遺跡の丸木舟も平成12年から約3か年をかけ、(財)元興寺文化財研究所保存科学センター（奈良県生駒市）で保存処理が行われ、一般公開できるようになりました。埋蔵文化財センターの展示室では、丸木舟のほか青田遺跡から出土した掘立柱建物の壁材や草敷貯蔵穴、漆製品など多数の木製品を展示する予定です。この機会にぜひ青田縄文人の生活を体感してみたいかと思いますが、

(三ツ井朋子)

保存処理の様子



汚れを落とし、保護材をとりつけました。

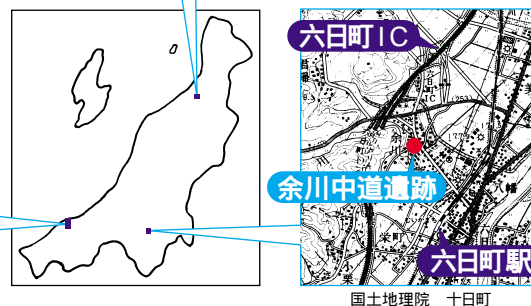
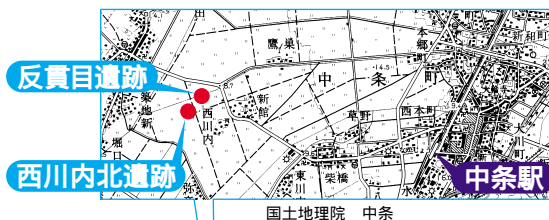


約1年をかけて濃度を上げながら、PEGを含浸させました。



乾燥させた後、接着・復元作業を行いました。

調査中の遺跡の位置



現場のおよその位置は左のとおりです。詳しい位置等のお問い合わせは当事業団までお願いいたします。

西川内北遺跡が7/1、家の前遺跡が9/1から調査を開始しました。どちらも10月中旬に調査が終了する予定です。

調査の概要は次号でお知らせする予定です。

報告書作成中の遺跡

小野沢西遺跡

小野沢西遺跡は中頸城郡妙高村大字関山字小野沢西にあります。上信越自動車道建設に先立ち平成6・7年度に発掘調査が行われました。遺跡は妙高山麓東裾の緩やかな斜面にあり、標高は約425mです。発掘調査の結果、数条の沢跡が見つかり、沢を埋めていた土の中から弥生時代中頃～古墳時代の土器が多く出土しました。中でも櫛歯状工具で波文様が描かれた弥生土器が数多く出土している点は特筆されます。この波文様の土器は信州地方に特徴的な土器で、新潟県内では小野沢西遺跡のある妙高村から上越市あたりまで出土例がありますが、これだけまとまった量が出土したのは初めてです。

古墳時代の土器には前期から後期までのものがあります。在地の土器とともに北陸、東海、畿内など他地域の土器の特徴をもつものが混在しています。

小野沢西遺跡のように弥生時代中期から古墳時代という期間の土器が継続的に出土した例は少なく、当該期における土器様相の変遷を考える上で貴重な資料といえます。(土橋由理子)



沢跡検出状況（黒色の部分）



土器出土状況



信州系の弥生土器

吉ヶ沢遺跡B地点

吉ヶ沢遺跡B地点は東蒲原郡三川村にあり、磐越自動車道阿賀野川サービスエリア建設に伴い平成3～6年に発掘調査を実施しました。遺跡は後期旧石器時代（約2万年前）・縄文時代草創期（約1万3千年前）を中心としています。阿賀野川サービスエリア内にはこの他にも上ノ平遺跡A地点・C地点など同じ時代の良好な遺跡があり、既に報告書も刊行されています。

吉ヶ沢遺跡で注目されるのは、数千点もの石器です。石器は基本的に石を割って作ります。そこで、これらの石器をつぎ合わせることで、その作り方を知ることができるのです。このように石器をつぎ合わせることを接合といい、接合した石器を接合資料といいます。

遺跡からは後期旧石器時代の石刃、縄文時代草創期の両面加工石器というその時代を特徴づける石器の接合資料が多数見つかっています。このことから出土した石器の大半が製作途上で生じたものであり、当時の石器

の作り方を知るうえでこの上ない資料であることがわかりました。

一方、上ノ平遺跡A地点・C地点では発見された石器は千点くらいで接合資料も少なかったのですが、完成された石器がたくさん発見されました。

このように同じ時代の同じ場所に内容が大きく異なる遺跡があったことも大変興味深い現象です。(澤田 敦)



後期旧石器時代の接合資料（左端の高さ15.2cm）

前原遺跡

前原遺跡は妙高山の北東の山麓、渋江川の左岸にあり、標高は約248mです。上信越自動車道の建設に伴って発掘調査を行いました。遺跡からは縄文時代中期後葉を中心とした時期の集落が発見されたほか、縄文時代早期と晩期の土器が多数出土しました。また、平安時代と考えられる炭窯が11基検出されています。縄文時代中期後葉の集落では段丘の縁際に7軒の竪穴住居が弧状に検出されました。竪穴住居の形態はほぼ円形で、径3mから5m位の比較的小規模なものでした。中心に方形の石囲炉を持っています。竪穴住居の中には、下層で一面に炭化材を敷き詰めた状況のものが見られ、火災にあった住居と考えられます。住居の周囲からは貯蔵穴と考えられるフラスコ状土坑を含む土坑や埋嚢も発見されました。現在整理中の集落出土の土器は、新潟在地の土器が少なく、その多くが長野の影響が見られる土器でした。この時期の中郷村は長野エリアにあったと考えられ、この地域の縄文時代を考察する際の重要な遺跡と考えられます。(小田由美子)



発見された竪穴住居



集落出土の復元土器



青田遺跡(中条町) 櫛

本物と出会う - 2 -

- センターの利用法を学ぶ先生方 -

小・中学校の先生方が研修の場として、このセンターを利用しています。6月には新津市、西蒲原郡、7月末には小須戸町の研修会が行われました。9月末には県立教育センター主催の研修会が予定されています。研修会ではおよそ以下のことを行っています。

- 1 新潟県埋蔵文化財調査事業団の仕事(遺跡発掘、整理作業などの仕事の様子)
- 2 埋蔵文化財とは(昔の人の生活の跡、発掘調査の手順、発掘現場の様子、道具などの説明)
- 3 展示室の見学(児童・生徒へどのような説明をしているか等)
- 4 体験活動の実習(火おこし体験、その他の体験活動の用具の説明)

研修会に参加された先生方の感想等は以下の通りです。

- ・見学・体験学習のためのいろいろな道具を見せて頂き、広く体験活動ができることが分かりました。
- ・実際に体験して、(子供たちが)できない時にどのようにしてアドバイスしたらいいか分かりました。
- ・5,000年前の土器を間近に見ることができ感激しました。子供たちにも是非見せたいと思いました。

教科書には写真が載っています。しかし、本当の大きさをとらえることはできません。もちろん質感等の雰囲気も伝わりません。また、教科書の土器は完形品です。バラバラの土器片が土の中から掘り出され、どのように復元されていくのか、一枚の土器の写真の裏にある膨大な手間と時間を本物を見て、理解してほしいと思います。一つの本物を「見る」ことでいろいろな視点からの発見があると思います。



研修会の様子

連載企画・にいがたの文字資料から 第6回

「地域の特徴を見る」 - 中越 -

8月の旧盆にはお墓に参り、先祖代々の供養を行うように、私たちは、日頃、様々な信仰や宗教に囲まれて日々の生活を送っています。インドに発し仏様を崇拝する仏教は、約1,500年前に朝鮮半島から日本の朝廷に伝えられました。その後まもなく、その支配下にいた地方豪族達も信仰を始め寺院を建立しました。荒天などの天災の際には神仏などに祈るしか方策はなく、そうした祭祀を執り行う当時の豪族にとって、配下の農民の眼前で神仏と通じる行為は支配力と直結していたようです。それ故、支配地内にいる地域固有の、いわゆる日本の神様を神社で祀りながら、外来の新たな仏教も積極的に利用したのです。

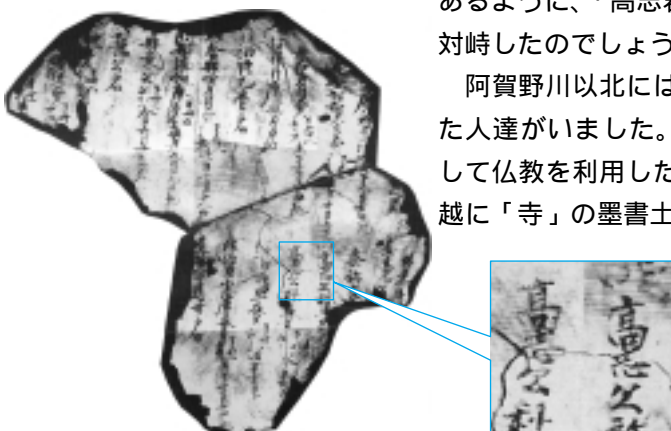
こうして造営された初期の寺院の一つが寺泊町の横滝山廃寺です。発掘調査により横滝山廃寺には二度、寺が建立されたことが分っています。

最初は約1,300年前（西暦700年）頃、この地の豪族が、当時としては珍しい瓦を葺いた寺を造立します。この地域の固有の神様は弥彦神（社）でしたが、新たな信仰もいち早く取り入れたのです。こうした初期の寺院はここより北では確認されていません。横滝山廃寺は当時の仏教に係わる最北端に位置する寺院だったのです。その後、何らかの理由でこの寺が廃絶し、約100年を経て再度、建立されます。こちらには瓦がなかったようですが、「寺」と記された墨書土器が拾われています（写真）。今のところ「寺」の墨書土器は、主に下越か佐渡で出土し、寺院と思われない場所でも出土していますが、横滝山廃寺の場合は昔から寺院があったので再建された寺とそれを示す墨書土器であると考えてよいでしょう。

では、1,300年前に寺院を創建した豪族とはどのような人だったのでしょうか。古代の寺泊町付近は古志郡（後に三島郡として分割）に属していました。古志郡には「高志君」と呼ばれた一族がいました。この一族は頸城郡にもいたようですが、和島村の木簡の中でも郡役所から派遣された使者として「高志君五百嶋」という人物が見られ、郡の下級役人であったようです。近年、秋田市秋田城跡で出土した漆紙文書でも「高志公」が見られ（写真）、頸城もしくは古志郡の人と考えられています。「高志君」は「高志」という氏名の他に、豪族という特権的身分の人々に与えられ、その証のような称号の一つである「君」（公も同じ）を付しています。これを称する豪族というのは大和政権の勢力範囲の中でも周辺の地域にいました。例えば北部九州を支配した「筑紫君」や熊本付近の「火君」、北関東一帯を統治した「上毛野君」などの大豪族です。これらの豪族の少し遠方には大和政権に服属しない人達がありました。古志郡を含む中越は、横滝山廃寺が北端の寺院であるように、「高志君」が大和政権の北端の豪族として服属しない集団と対峙したのでしょうか。

阿賀野川以北には大和政権に服属しない「蝦狄または蝦夷」と呼ばれた人達がありました。『日本書紀』という歴史書には、服属させる手段として仏教を利用したことが書かれています。もしこれが事実ならば、下越に「寺」の墨書土器が多いことと関係するのかもしれませんが。

（田中一穂）



写真

秋田市秋田城跡出土十六号漆紙文書赤外線写真 同実測図(右)
『秋田城跡出土文字資料集』秋田市教育委員会・秋田城跡調査事務所 2000

漆紙文書...役所で使用した紙を漆容器の落としぶたとして再利用したもの。漆の強い保存力で紙の保存状態が良い。

蝦狄...大和政権に服属しない人々を広く蝦夷と呼ばれたが、特に日本海側にいた人々は蝦狄と呼ばれた。



写真

「寺」墨書土器

寺泊町横滝山廃寺出土『寺泊町史』通史編

埋文コラム「発掘から見てきた食事風景」前編

はし 箸状木製品

608年小野妹子が隋から帰朝した時、同行した隋使を歓迎するため宮中で饗応の宴が催されました。その際、中国のテーブルマナーを採用して、2本箸と匙を正式の食具として並べたのが、日本最初の箸の使用だといわれています。

箸の並べ方をみると、おもしろいことに平安時代末期までは縦に箸を並べ、鎌倉時代には現在のように横に箸を並べるようになったことがわかっています。逆に中国では、同時期に横置きから縦置きに変化しました。ただの中国の模倣ではなく、独自のスタイルを築いていたのかもしれない。

紫雲寺町の住吉遺跡（中世）は平成10・11年に発掘調査を行いました。この遺跡の土坑や井戸から大量の箸状木製品が出土しています。現在の割箸のように簡易的な使用によって、破棄されたものなのでしょうか。また、箸状木製品は中世に入ると齋串（祭祀の際に使用する細長い薄板）として使われたという考え方もあります。これらの箸状木製品は（神聖と考えられる）井戸から出土したことも踏まえると、齋串として奉納したと考えることもできます。



箸状木製品（住吉遺跡）

しゃくし 杓子形木製品

縄文時代からすでに杓子・匙と思われる遺物が出土しています。多くは木製品で、かき混ぜる、器に取り分けるといった役割に応じた形をしています。

ご飯を盛るような杓子は「飯杓子」、汁物は丸形で中が窪んだ「汁杓子」（お玉）と呼ばれます。現在は、プラスチック製の物が多く出回っていますが、昔の飯杓子は板材を削り出して使用していました。また、汁杓子はホタテ貝・大蛤の貝に柄を付けて使用していました。正倉院でも人工的に手を加えた貝匙が60枚伝わっています。

板倉町の仲田遺跡では中世の井戸から杓子が2点出土しています。右上の写真は、1本ものの素材から細かな削りによって作製された汁杓子です。大きくカーブする柄に、円形に浅く削り出された身がついています。全体には黒漆が塗布されています。樹種は軽柔なヤナギ属を使用し、目的に応じた樹種選択を行っている様子がうかがえます。右下写真の飯杓子はスギの板材を素材としています。手のひらに収まるほどのかわいい大きさです。これらの杓子でどんな料理を盛分けていたのでしょうか。（今野明子）



汁杓子（仲田遺跡）



飯杓子（仲田遺跡）

参考文献 「もの与人間の文化史 96・食具」

法政大学出版局 山内昶 2000

県内の遺跡・遺物 42

みずしな
水科古墳群 (昭和51年 国指定)

遺跡所在地：中頸城郡三和村大字水科字鷺ノ首・塚田

水科古墳群は、高田平野の東側山麓から西に流れる飯田川が形成した扇状地の右岸扇頂部に位置しています。七世紀頃営まれた後期古墳群で、東側上流部には宮口古墳群があり、南側には飯田川を挟んで北方古墳群があります。

昭和50年には場整備事業が行われることになり、三和村教育委員会が発掘調査を実施しました。その結果、約1ヘクタールの狭い地域内に大小32基の横穴式石室墳の群集が発見されました。その後、昭和54年の調査で新たに2基の古墳が発見されました。墳丘の上半部は、過去の開田等で失われてしまいましたが、基底部分は当時の状態を保っていました。

古墳群の中で最大のものは第21号墳です。羨道の外側から川原石を墳丘面に外護列石状（石垣状に積み上げた葺石）に積み上げ、その外側には周溝がめぐっています。直径は約20m、墳丘の高さは約3mの円墳です。

古墳群の石室の規模は、石室全長8m前後の大形のもの（第21号墳）、石室全長4m前後の中形、そして、全国的にも珍しい石室全長1m前後の超小形石室（第4、20、23、28、30、33号墳）などがあります。

出土遺物は石室内から、直刀、刀子、金環、銀環、勾玉、棗玉、切子玉、滑石製小玉、ガラス玉、台付琬などが発見され、墳丘外の周溝などからは、長頸壺、坏、提瓶、大甕、横瓶などが発見されました。

水科古墳群は昭和51年5月6日、国の指定史跡となり、現在は石室や墳丘が復元、補強され史跡公園として公開されています。



第21号墳



超小形石室が見学できる第30号墳(左)



水科古墳群の入口付近（写真撮影 平成15年8月）

埋文にいがたNo. 44

発行 (財)新潟県埋蔵文化財調査事業団

〒956-0845 新津市金津93番地1

TEL (0250) 25-3981 FAX (0250) 25-3986

e-mail: niigata@maibun.net URL: <http://www.maibun.net>

印刷 新高速印刷(株)